



ありがとう かみすげた

令和2年1月31日
横浜市立上菅田小学校
学校だより2月号

上菅田小学校 学校教育目標
心かがやく上菅田の子ども

- か 上菅田の「まち」を知り、地域とともに活動しよう (公)
- み みんなも自分も大切に、社会に貢献しよう (徳)
- す すてきな日本を学び、世界で活躍できる人になろう (開)
- け 元気な心と健康な体を作ろう (体)
- た 楽しく学び、のびのびと表現しよう (知)



みんなで
東京2020
オリンピック・
パラリンピックを
応援しよう。



困難だが不可能でない目標！

失敗と成功の一番の違いは、途中で諦めるかどうか (スティーブジョブズ)

校長 縣 利一

令和2年1月23日、内閣府において第48回総合科学技術・イノベーション会議が開催されました。議事の中で「ムーンショット型研究開発制度」の目標案が示されました。ニュースにもなっていましたので、ご存知の方も多くいることと思います。

しかし、ムーンショットという聞きなれない言葉について、調べてみると次のような意味がありました。

アメリカの第35代大統領ジョン・F・ケネディが1961年5月25日に「我が国は1960年代が終わる前に、月面に人類を着陸させ、無事に地球に帰還させるという目標を達成する。」とスピーチしました。その後アポロ11号が1969年に月への着陸と地球への帰還を実現しました。このことから、月へのロケットの打ち上げという言葉「ムーンショット」が、大変に困難だが、実現することによって大きな影響や効果をもたらされるという、壮大な目標へ向けての挑戦という意味の言葉となったということです。

さらに、この「ムーンショット」の言葉には、挑戦的研究開発を積極的に推進することにより、「失敗も許容しながら、革新的な研究成果を発掘し、破壊的イノベーションの創設につなげる」という意味もあります。

ところが、今の日本には、将来の産業や社会変革の可能性を秘めた独創的な研究成果が、基礎研究領域から多数生み出されているにもかかわらず、その研究成果を、スピード感をもって産業や社会に実装化し、グローバルに展開していく研究開発システムが、不十分なのだそうです。たとえば、1987年に大阪大学の石野教授が発見した“CRISPR”と呼ばれるDNAの繰り返し配列の論文から、2012年にカリフォルニア大学がゲノム編集技術を確認しました。当時の日本ではゲノム編集技術ができなかったのです。また、1998年に東京工業大学の西森教授らは論文で「量子アニーリング」理論を確認しました。その後2011年にカナダのD-Wave社が量子コンピュータを作ります。

日本は物理・化学の分野で何人ものノーベル賞を受賞することができた、基礎研究領域の充実した国です。今後は、この研究成果が「ムーンショット型研究開発制度」の推進を通して、産業や社会に実装化し、グローバルに展開していく国にならなければならないと思います。

では、失敗も許容しながら革新的な研究成果を発掘していく、国が定めた6つの目標とは何でしょう？

【ムーンショット型研究開発制度目標案】

「Human Well-being」(人々の幸福)を目指しその基盤となる社会・環境・経済の諸課題を解決すべく、6つのムーンショット目標を設定

○ 2050年までに達成すべき6つの目標案

- 《目標1》人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現
- 《目標2》超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現
- 《目標3》AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現
- 《目標4》地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現
- 《目標5》未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食料供給産業を創出
- 《目標6》経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性型汎用量子コンピュータを実現

2050年、上菅田小の子どもたちが、それぞれ地域や国、世界で活躍している時代です。これからの30年間で、これらの目標が達成され、子どもたちが明るい未来をたくましく生き抜いていく人材に育つための学校教育、家庭教育、社会教育でなければならないと改めて感じた次第です。

人権週間の取り組み

『障害がある方々の話を聞き、障害者の方の置かれている状況や思いを理解する中で、「思いやりの心」や「かけがえない命」についてもう1度考える。』ことをねらいとして、人権週間(人権週間は、毎年12月10日を人権の日とし、その前の一週間を指します。)に、学年ごと様々な取り組みを行いました。この活動をきっかけとして、相手の立場に立って考えることについて、一人ひとり振り返ることができたと思います。

1年生

他者理解学習

人権擁護委員の方のお話や人権まもるくんのDVDを見て、身近にいる人にどんな気持ちをもって接すればよいかについて学習しました。



2年生

聴覚障害理解学習

聴覚障害の方から、手話を教わり表現することを楽しみました。いろいろな人が暮らしていることに気づき、相手を思いやる気持ちを学びました。



3年生

肢体不自由理解学習

肢体不自由の方に来ていただき、話を聞いたり、車イスに乗ったりする活動を通して、相手の立場に立ち、人を大切にする気持ちを学びました。



4年生

視覚障害理解学習

視覚障害の方に来ていただき、お話や体験などを通して理解を深めました。相手の立場に立って考えること、配慮をすることで、みんなが安心して生活できることを学びました。



5年生

認知症理解学習

オレンジロバの会の方から、認知症についてのお話を聞きました。劇などで理解を深め、認知症の方、その家族の方の気持ちを考えました。そして、自分たちにもできることがあるということ学びました。



6年生

他者理解学習

日頃の友達とのかかわり方を振り返り、NHKの番組を視聴して学習を進めました。友達への言葉や振る舞いで気を付けなければならないことについて考え、話し合いました。



NPO法人、元気な地域人の会より、ご支援とご協力をいただきました。